



アメリカはなぜ黒船を日本に出したの

大統領の手紙の内容

1853年、浦賀に来航したペリーは、日本側代表に、アメリカ大統領の手紙を届けました。その手紙の内容は、日本・アメリカ間の親睦・貿易、アメリカの商船・捕鯨船への石炭・まき・水・食料の補給のため、開港(外国船の出入りが許される港)を一つ設けること、船がそうなんして、日本へ流れ着いた船員の、生命・財産を保護すること、の3点でした。このような要求をした裏には、アメリカ側の事情がありました。

蒸気船の石炭補給基地が必要だった

そのころ、アメリカでは、機械を使った工業生産が、盛んになっていました。特に、綿製品が、たくさん作られるようになりました。そこで、これらの工業製品を、売りつける相手として、アジア、特に中国に、目をつけました。1842年に、中国との戦争(アヘン戦争)に勝ったイギリスが、香港を手に入れ、中国へ進出する根拠地になると、アメリカも、中国と条約を結んで、貿易を始めました。しかし、当時の蒸気船は、重くてかさばる石炭を、あまり積めなかったのです。そのため、太平洋のあちこちに、石炭を補給する基地を設けることが、必要になったのです。

捕鯨船の保護が必要だった

当時のアメリカでは、機械を24時間動かす工場も、増えてきました。夜も仕事をするためには、照明用の鯨油(クジラの油)が必要でした。そのため、1830年代から、捕鯨業が盛んになり、日本の近くまでも、捕鯨船がやって来ました。しかし、そうなんして、日本へ流れ着いた船員は、罪人のようにあつかわれました。アメリカにとっては、捕鯨船などの船員の保護も、必要になったのです。(監修・田代 脩)

